

## 「箔をつけるシゴト」

## 印刷・塗装業界の環境負荷を軽減する“顔料箔”の提案

1952年会社設立。金糸の加工に使用されていた材料を応用し、日本初のブロッキングホイル(顔料箔の原型)を開発。長年、繊維や製本、食品包装分野向けだった製品を工業製品向けにも応用。今では自動車の各種部品や家電製品、化粧品容器等に多数採用されている。顔料箔は印刷加工時に有毒なVOC(揮発性有機化合物)を使用しないため、環境負荷軽減や製造現場の安全性向上に繋がるとして引合いが増加し、直近3年間だけでも1,300以上の商品開発・試作提案を実施している。

所在地	京都府京都市左京区大原戸寺町368番地	設立	1952年
電話/FAX	075-744-2326 / 075-744-3154	資本金	1,000万円
URL	<a href="https://www.kanmaki-foil.com">https://www.kanmaki-foil.com</a>	従業員数	11人
代表者	代表取締役社長 久保 武久		



## 顔料箔とは

顔料箔は、デザインを表現したい基材(主にプラスチック)の上に顔料箔をセットし、熱と圧力でプレスして剥がす。すると熱と圧力が加わった部分だけが転写される。同社ではこの顔料箔を使って、印刷塗装で当たり前だった「塗って乾かす」というプロセスを「貼って剥がす」にシフトチェンジさせた。なぜ、印刷塗装を「塗る」から「貼る」にしなければならないのか?理由は、火災の原因になり、発ガン性があり人体にも、環境にもよくないVOCを使わずに印刷塗装ができる顔料箔を開発したからである。



熱転写のドライコーティングの印刷

## 顔料箔で印刷塗装業界の環境負荷を軽減する!

右記の図は上が従来の印刷塗装、下が顔料箔の加工プロセスである。どちらも元の塗料は同じもの。従来は何時間もかけて色を作って塗って、乾かす、その全てのプロセスでVOCを使用していたが、顔料箔はVOCを製造段階で除去しているので、ユーザーは貼って剥がすだけ。その時間はわずか数秒である。色を塗って乾かしていた工程がなくなり、作業時間は99%削減され、電気代や熱排出を減らし、環境負荷も大幅に軽減。結果、ユーザーの工程は全てVOCフリーとなり、労働環境の安全性を向上させることができる。



印刷工程に関する図

## 世界一小回りの利く顔料箔サプライヤーとして

KANMAKI 顔料箔は、自動車のパーツへの装飾として採用され、家電製品や化粧品ブランドのロゴマーク、ワクチン用注射針の目盛り等に数多く使われている。現在の市場規模は200億円と言われているが、長らく新規参入や開発系サプライヤーがなかったため、同社は規模は小さいながらも、ISO9001規格を保持、各種環境破壊物質規制にも早くから対応、グローバルな市場で戦えるサプライヤーを目指している。



顔料箔製品